

祖父母世代に聞きました

～言われて・されてうれしかったこと～

孫の笑顔に、心から癒される。

友達とお茶をしたいというママのために、子どもを預かってあげたら、「本当に楽しかった」と言ってくれた笑顔が嬉しくて、「いつでもいいよ」と言いたくなってしまう。

孫を連れて公園に行くと、同じような孫連れのじーじフレンド（ばーばフレンド）ができる。

夢中になってアリンコやダンゴムシを眺めている孫に、いつまで付き合っても飽きない。

今の母子手帳や育児書を見せてくれて、昔と違うことを丁寧に説明してくれた。

孫の足の親指の爪が自分と同じ形なのを見て、自分の命が続いていることをしみじみ実感した。

孫が「じいじ、ばあば大好き」と言ってくれる。

ママの食事中や、お風呂のときに孫を見ているだけなのに「ゆっくりできてうれしい」と言ってくれる。



～言われて・されてイヤだったこと～

土日のたびに、親子でご飯を食べに来て、私たちの休日を奪うのはやめて。その上、「孫を見せに来てあげた」とは、少々恩着せがましくないかな。

「赤ん坊が泣いた!笑った!」と、やたらに携帯メールに写真を送ってくること。

私が子どもを見てあげると言うのに、頼ってこない。



孫はかわいいから、にっこり笑って預かるけど…、お守は結構疲れるってことを、親は分かっていない。

「ランドセル
こちらは代金
払うだけ」
何でもかんでも、スポンサーだとあてにするな。

自分の子どものときは何ひとつ手伝わなかった夫が、せっせと孫の世話をして、孫がなつくのを見ると複雑な気持ちになる。

もっと会いたいのに、なかなか連れて来てくれない。

親はちゃんとしつけをすること。「いただきます・ごちそうさま」の礼儀や、靴を揃えたり新聞を踏んだりしないことは、人として当たり前。

「初孫は 1泊だけでは心が残る 3泊以上は疲れが残る 2泊3日がちょうどいい」・・・でも孫が増えたら、日帰りで十分。

子どもに、「そんなことしたら、じいじ(ばあば)に怒られるよ」と言う。